

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	グループホーム つどい		
所在地	〒021-0002 岩手県一関市中里字石川瀬13-1 (電話) 0191-31-6500		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 13.1	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費	円
敷金	有(円)	有りの場合	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	償却の有無		有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		900 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	9 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2		8 名	
要介護3	3 名	要介護4		1 名	
要介護5	0 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 82 歳	最低	54 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一関病院、いとう脳神経外科、近江歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、医療法人一秀会の運営する事業所の1つで、JR一ノ関駅から車で5分ほど、県交通一ノ関総合体育館バス停からは徒歩で3分ほどのところに位置している。近接して住宅や大型スーパーマーケットがあり、人通りや車の往来が多く見られる。交通など周囲の音は気になるほどは無く、にぎやかな中にも静かな環境にある。職員の「その人らしく」を支援したいという願いのもと、さりげない・温かい見守りの中、利用者と職員がしっかりと支えあい、家庭的雰囲気の中で、ゆったりと生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価は開設1年目であったため、アセスメントに基づいた特徴ある計画づくりや、入浴支援、家族の意見・要望を引き出す働きかけなどにおいて改善課題がみられたが、職員の話し合いなどを踏まえ改善工夫が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者ユニットリーダーを中心に、全職員が意見を出し合い、話し合いをし自己評価に取り組んでいる。自己評価のプロセス通して、今やっていること、今後やらなければならないことなどに気づき、ケアについて職員が新たな視点で見つめる機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的開催されている。主な内容は、利用者の状況、ホームの活動状況の報告、意見交換などとなっている。今後は、委員からの意見や要望をいただきながら、サービスのあり方を検討していきたいとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年4回発行の広報のほか、毎月送付する利用料の請求に合わせて、介護記録を送り利用者の暮らしぶりや健康状態についてお知らせするほか、状態変化時等は随時連絡を取り合っている。預かり金についても毎月、金銭管理表を送って使途や収支を報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し、夏祭りや清掃活動など地域の行事には積極的に参加して、交流を図るほか、散歩等の際に、ご近所の方々と気軽に挨拶を交わしたり、野菜等をいただく機会などを通して馴染みの関係づくりに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービス提供事業所として、誰にでも分かりやすいことを念頭に、「1、その人らしい生活が継続されるようお手伝いします」「1、ぬくもりのある家庭的な場を提供します」「1、地域との交流を大切にします」を、開所時に独自の理念として定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有を図るため事業所内に掲示するとともに、理念の下に運営方針や職員目標を定め、日ごろのケアにも反映されるように努めている。また毎月開催する2ユニット合同会議の場において理念を念頭にケアプランにづくりについて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入して夏祭りや清掃活動に参加するなど、地域の行事に積極的に参加して交流を図るほか、散歩等の際に近所の方々と挨拶を交わしたり、野菜等をいただくなどの機会を通して、馴染みの関係づくりに努めている。	○	ホーム開設2年目で地域活動への参加・交流に努めているが、「ボランティアがまだいない」とのことであるので、ホームの次の取り組みとしてボランティアの受入れとその交流に期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ユニットのリーダーを中心に全職員が話し合い、自己評価に取り組んでいる。この評価のプロセスを通して、今やっていること、今後やらなければならないことなど、職員が、ケアについて新たな視点で見つめる機会となったとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催されており、主な内容は、利用者の状況、ホームの活動状況の報告、意見交換などとなっている。今後は、委員から意見・要望をいただきながら、サービスのあり方を検討していきたいとしている。	○	会議にテーマを設定したり、必要に応じて消防や警察など委員以外の方の出席も考慮するなどして、より有意義な会議(勉強の場)となるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段の訪問はないが、運営推進会議の際や電話連絡等により、相談や連絡等を気軽に話し合っている。今後は、往來を含めて、より緊密な関係づくりに努めたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については、年4回発行の広報(たんぼぼ通信、ひまわり通信)のほか、毎月、利用料請求の際に合わせて、利用者の介護記録を送ってお知らせするほか、状態変化時など必要の都度、連絡を取り合っている。預かり金は、毎月、金銭管理表を送って、使途や収支を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は無いが、苦情申し立て窓口のほか、意見箱も設置している。運営推進会議や行事、面会時等に意見をいただくこととしている。現在、出された意見等はないが、出された際には、職員で話し合い、運営に反映できるように努めたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所して間もないことから、利用者のダメージにつながるような異動はない。異動等に際しては、利用者へのダメージを防ぐことも含めて、管理者等と職員が十分な話し合いを重ねてから行うように努めていきたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人ごとの研修計画は立てていないが、事業所や職員にとって有意義な研修、職員の希望する研修への派遣については、積極的に取り組むほか、法人や事業所でも独自に研修を実施している。外部研修結果については、伝達研修を行うなど、情報の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会に参加するほか、同業者との交換研修などを通して、情報交換や職員の資質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用に際しては、可能な限り、見学等によりホームの雰囲気に馴染んでから利用いただくようにしている。またホームでの生活に慣れるまでは、家族の面会や電話連絡等を重ねるなど、徐々に馴染んでもらえるような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事(食事や洗濯物たたみなど)を中心とした職員と利用者が一緒に活動する場面において、相互の信頼と心の繋がりを深め、支えあいながら生活をしている。それぞれの場面で、職員が利用者から教わるが多くあるとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のフェイスシートや家族等からの聞き取り、声かけや会話、表情など、日々の関わりを通じて、思いや意向を出来る限り、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態、本人家族の意向を踏まえて原案を作成し、職員カンファレンスを経て、計画作成(本人家族の確認・同意)している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月、6ヶ月)なモニタリング結果による見直し、利用者の状態変化に応じた見直しなど、家族等との話し合い踏まえて、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ユニットにより対応の相違がみられるが、通院や買い物、理美容やドライブ、足湯など、利用者の要請により支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医に通院受診している。家族同行での受診の際には、利用者の健康状態や様子を詳しく家族に伝えている。家族同行が難しい場合は、職員の通院支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化等への対応について、家族等の意向は確認しているが、それに向けた具体的な取り組みには未だ至っていない。実際の対応については、その都度、家族等の安心・納得の得られるよう十分に話し合いを重ねていきたいとしている。	○	家族等の安心・納得にもつなげるためにも、重度化等に対する事業所の基本的対応方針について、検討されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際、目立たずさりげない声かけをするなど、プライバシーに配慮した対応をしている。介護記録等の個人情報は、鍵のかかる場所に保管している。プライバシー確保等を含め、職員の資質向上に向けた勉強会等を実施したいとしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れで声かけはするものの、あくまでも、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて対応している。帰宅願望や心配事がある利用者については、十分に傾聴するほか、必要時には家族への電話、散策等にも寄り添うなど、個々に合わせた柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の食べたいものや旬のものを取り入れて決めており、買い物、調理、盛付け、片付けなどは、職員と利用者が一緒に行っている。食事職員・利用者が同じテーブルを囲んで、和気藹々、楽しく食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回ほど入浴できるようにしているほか、利用者それぞれに、タイミングや言葉かけ等に工夫をして、楽しく入浴できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(食事づくり、洗濯物折たたみ)等、利用者の得意分野、出来る分野で、利用者一人ひとりが力を発揮できるように支援している。常に、職員は、場面ごとに、利用者への感謝の言葉かけを忘れないように心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者それぞれの気分や状態に応じて、散歩、買い物、ドライブ、家族との外食など、外出支援に努めている。職員体制等の関係もあり、必ずしも利用者の希望に十分には対応できてはいないとしている。	○	2ユニットのメリットである多くのマンパワーの下、職員の相互協力体制を考慮しながら、利用者の希望に十分応えられるように期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムを設置しているが鍵はかけないことを基本にしている。利用者が外出したいときには、一緒に寄り添い声かけをするなど、さりげない見守りのなかで、利用者の満足感を満たすような工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年に2回、避難訓練等を実施するほか、全職員が救急救命講習を受講するなど緊急時に対応できるようにしている。運営推進会議において、地域住民の協力についても依頼をしている。	○	地域住民の具体的な協力内容の検討を含めて、災害を想定したシュミレーションを行うなど、より実践的な訓練等を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量については、毎食ごとにチェックするほか、利用者の状況に応じて刻み・とろみなどについて気くばりをしている。献立や栄養バランス等については、勉強会をしたり、定期的に法人の管理栄養士の専門的アドバイスも受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、コタツ、テレビ、四季折々の花や植物を配置しているほか、貼り絵など、利用者と職員が一緒に作成したものを綺麗に飾って、居心地よく生活できるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた、筆筒、時計、ラジカセ、友人・家族の写真、日用品など、それぞれ持ち込み、思い思いに配置して、心地よく住まいしている。		